西遊旅譚

卷之伍

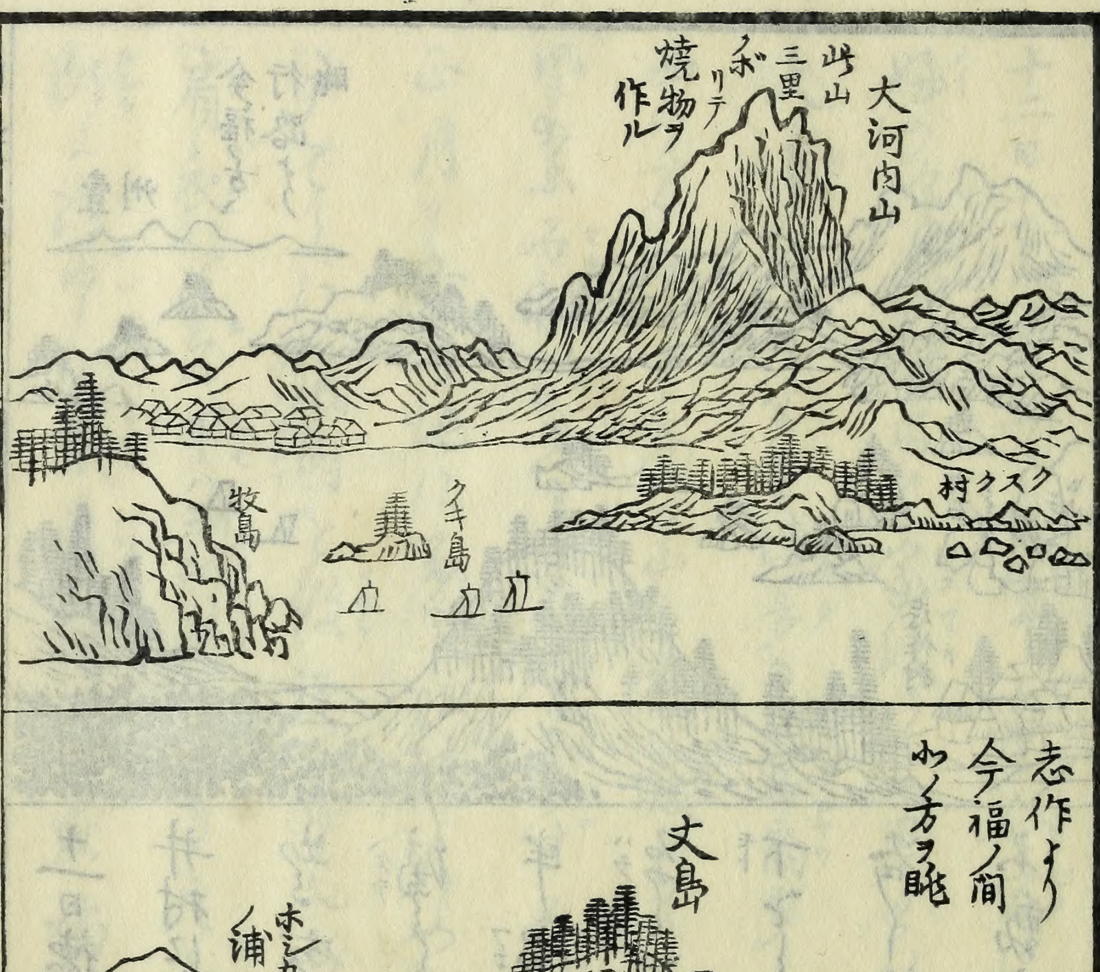
LIBRARY
Brigham Young University
RARE BOOK COLLECTION
Vault
895.6
Ek12
1794
BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
3 1197 23947 1508

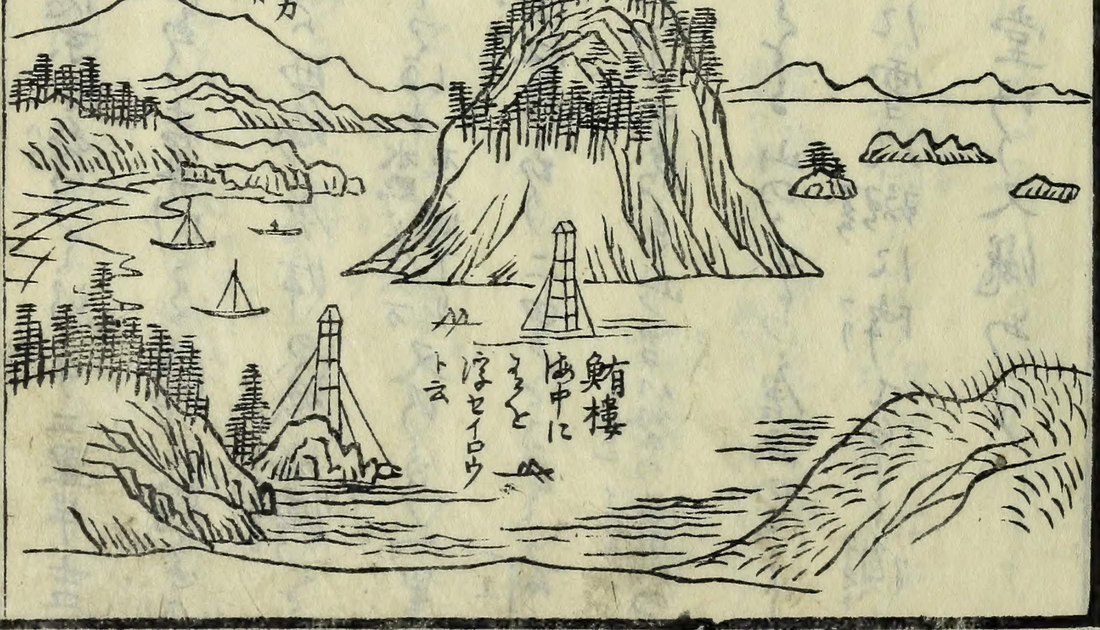
西遊旅譚巻之五

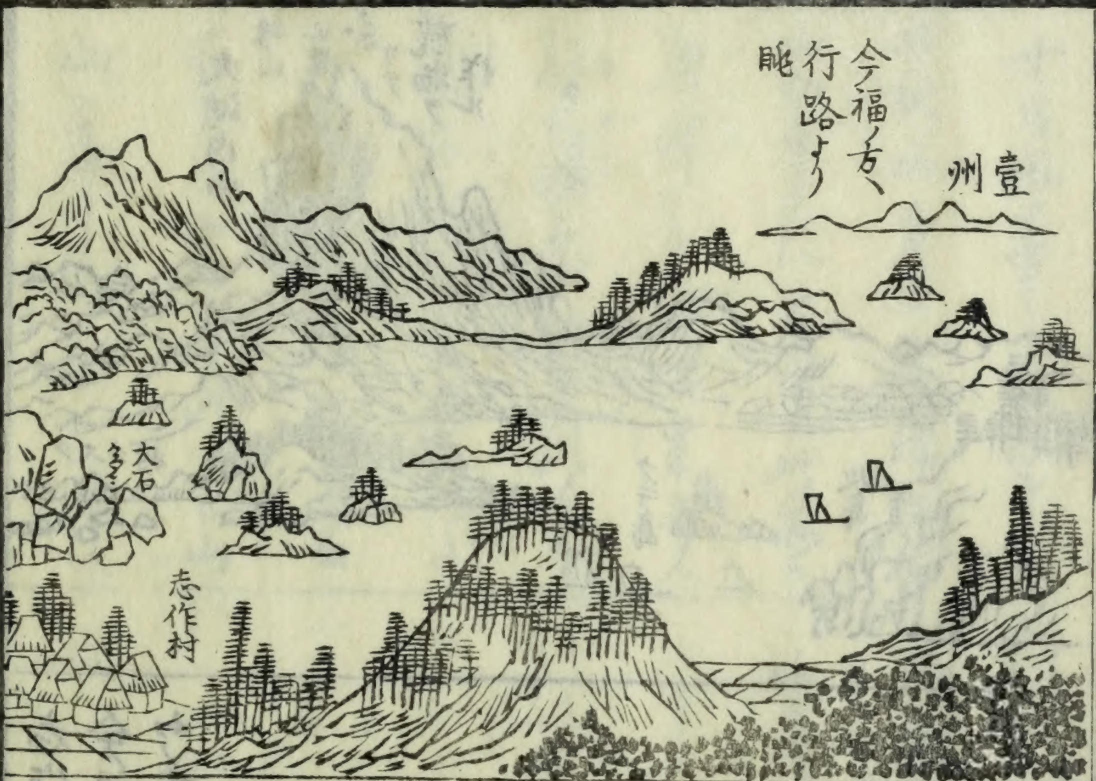
正月八日平戸島を發して田平羅の渡一里夫より御厨へ
三里又夫より一里にして調川と云所社人の茅舎に宿す甚
の山中也此路海岸をめぐりて風景よし調川より行ば
一里志佐村こゝより今福へ二里ちかあちかえといへる
所を經て久原まで四里此より入海を舩又ゆくなり
三里伊萬里に宿す此所より鍋島侯の領地にして
焼物を出す大河内山有田山此山中にて焼出す陶器
日本國中にいふなれ

十日風雪ふく寒し
此後山多し屋敷(ヤシキ)野村
山の半にみゆる此所は
唐津(カラツ)と伊万里(イマリ)の
封疆(サカイ)なりされは
徳末(トクスヱ)より此所まで
三里なり濱崎まで
取り宿る此辺(コノヘン)山
山多し

調川(ツキノカハ)より
御厨(ミクリヤ)の
百七ッ島
なり


大河内山
此山三里ノボリテ焼物ヲ作ル
クスク村
牧島
クキ島

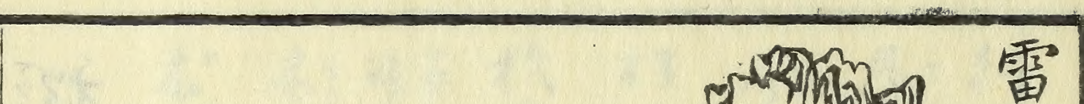

志作より今福ノ間沖ノ方ヲ眺
文島
ホシカ浦
鮪樓
海中にこゝと浮セイロウト云

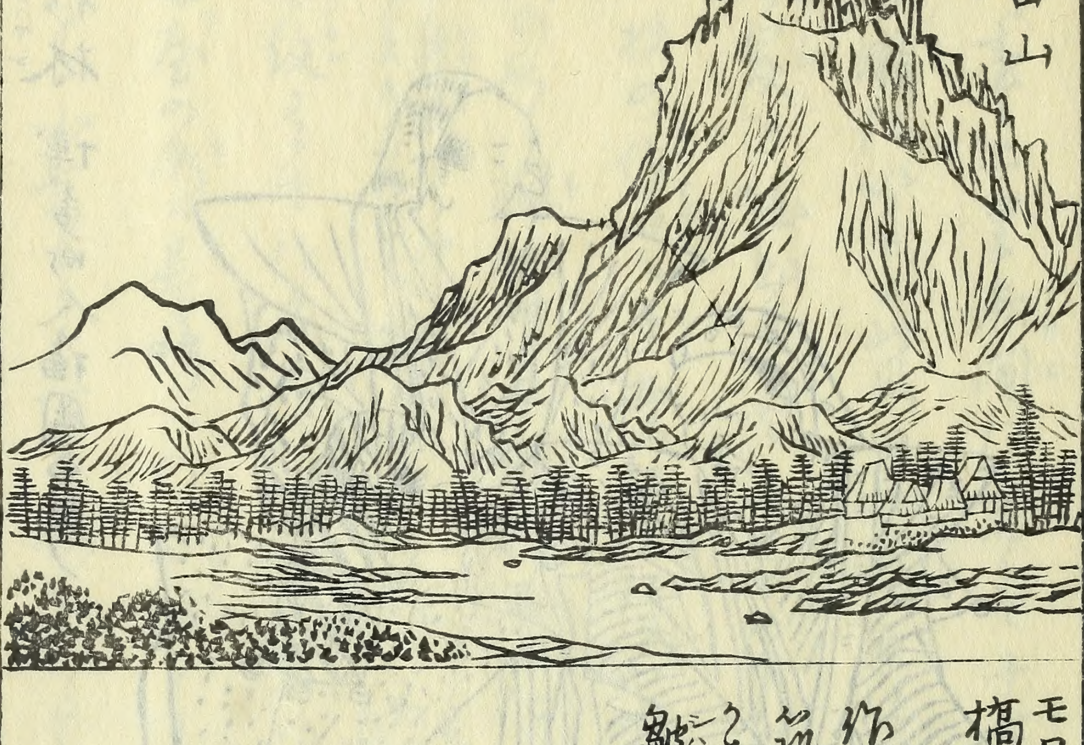


十一日徳末を發(ハツ)してゆく事二里半吉
井村に到り吉井川を渡りて濱崎に
出る右の西海唐津の城海濱(イリウミ)を
隔(ヘダテ)て見ゆる 水野侯六万石ノ城下なり 又ゆく事一里
半深江(フカエ)に到り二里ばかり行て前(マヘ)
原(ハラ)と云る所に来る此所筑前(チクセン)の雷山(イカツチ)の
下(モト)となる山のけしき唐画のごとし
谷々に雪斑(マダラ)に降(フリ)て白し頂(イタヽキ)に
不動堂ありて又瀧あり

十二日家原を出て行事二里今宿にいたる又行事二里にして
姪の濱といへる所人家續きて一里余也福岡なり 黒田侯五十万石ノ城下ナリ
夫より行事半里博多なり富商多し 昔唐船ノ入津シタル所ナリ博多織ハ唐ニテ製ス今ハ其製ナシ
西の方海にて南は山にして暖土なり橙家々に植常に酢にもちゆ
風景石斛おのつから山谷に生ず又石炭を出す
正月十五日此地に留りて松林といへる祝事を見る物は家々
戸にて酒肉を饗ふるまふに博多町人は麻の
肩衣を着下は裁付を着て足に手拭をしめ
頭に頭巾を戴草鞋をはき福岡の城内に入玄関に至

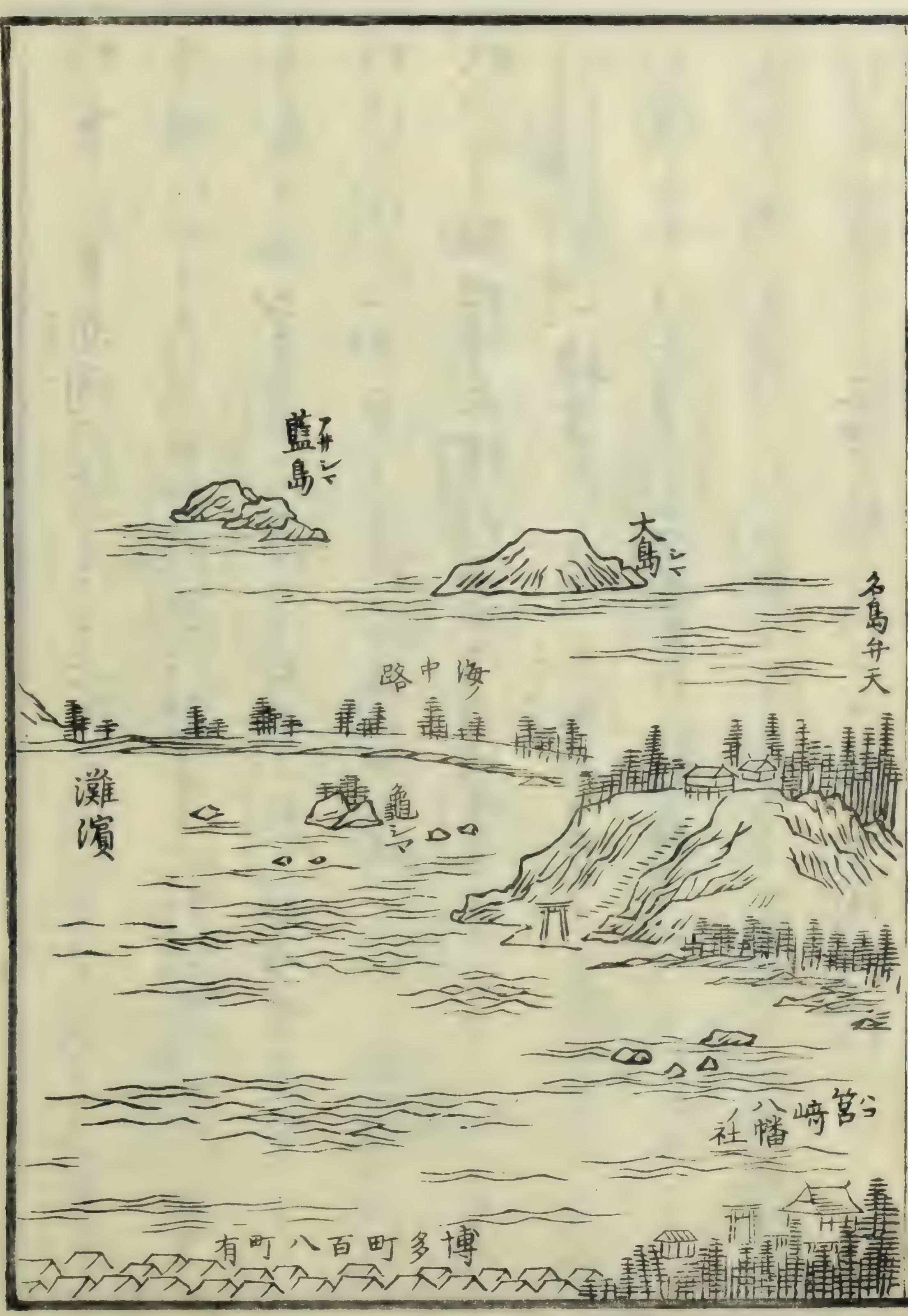
酒とのみてくる景にて松林と云此なる所謂とたゞずみ居らむ
いにしへ博多ハ唐船の渡海して今の長崎のごとし福岡乃
領地にありし故に其時の風俗今に存せり近世ハ踊屋台
或ハ祇園なとを出せり櫛田の祠博多第一の大社なり柳町
ちかごろいふ色町なり
十六日博多を出て箱崎へ壱里あり名所の處なる人家續く箱
崎八幡夫より松原を通りて青柳と云四里此所海邊中に見ゆる
藍嶋残の嶋なとみえて景色佳又山中に入二里ほとを行て畝町と云宿なる

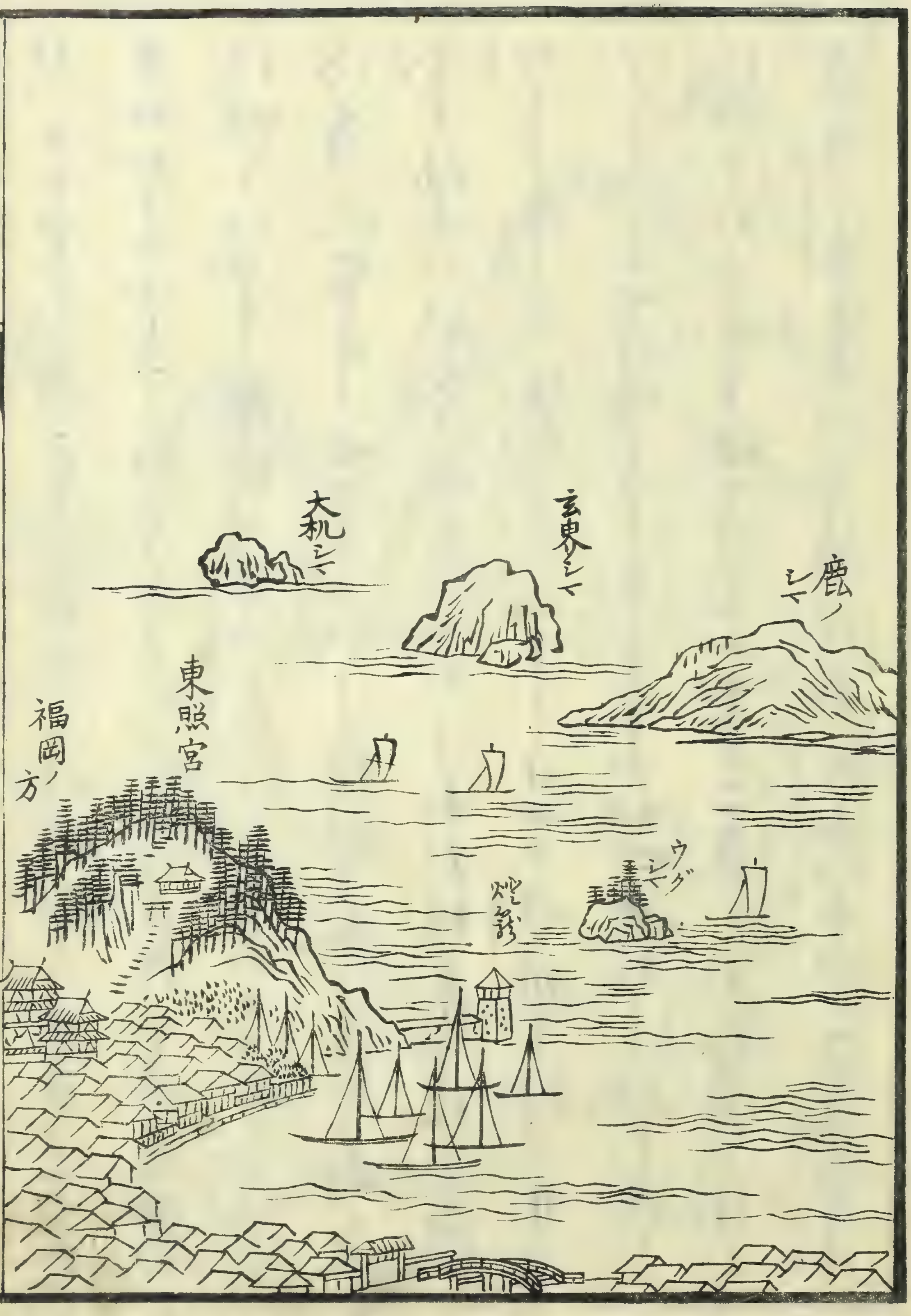

雷山


モロミ河ニカヽル
橋七十間余
加賀山
越前山
うちかさりて
皺(シハ)茂(シゲ)し

松林（マツハヤシ） 博多町人福岡より

行事二里赤間に宿りて十七日赤間を発して行こと四里木屋瀬に至る此辺田畑曠原に薊多し（薊ナ名クロツル白ツルナリ母頂ハナシ蝦夷ニ多シト云）此辺石炭を堀出すこと多し石炭のうちより石を出し皆木紋ありて松杉の化石と予察するに石炭ハ山の麓より出る箱根山神代杉のごとし樹地中に埋れ石と化し硫黄の気をうけ燃るもの甚臭気あり油と硫黄ありといひし硫黄ハ気の不徹物のうちより出るにこれ木紋ありて化石あり其の大石あり枝ありて木のごとし木屋の瀬ハ長崎への往還なり是より黒崎へ出て小倉にいたる小倉より三里海をわたる即下関（赤間ノ関トモ云）


藍島
大島
名島弁天
海中路
灘濱
亀シマ
宮崎八幡社
博多町百八町有

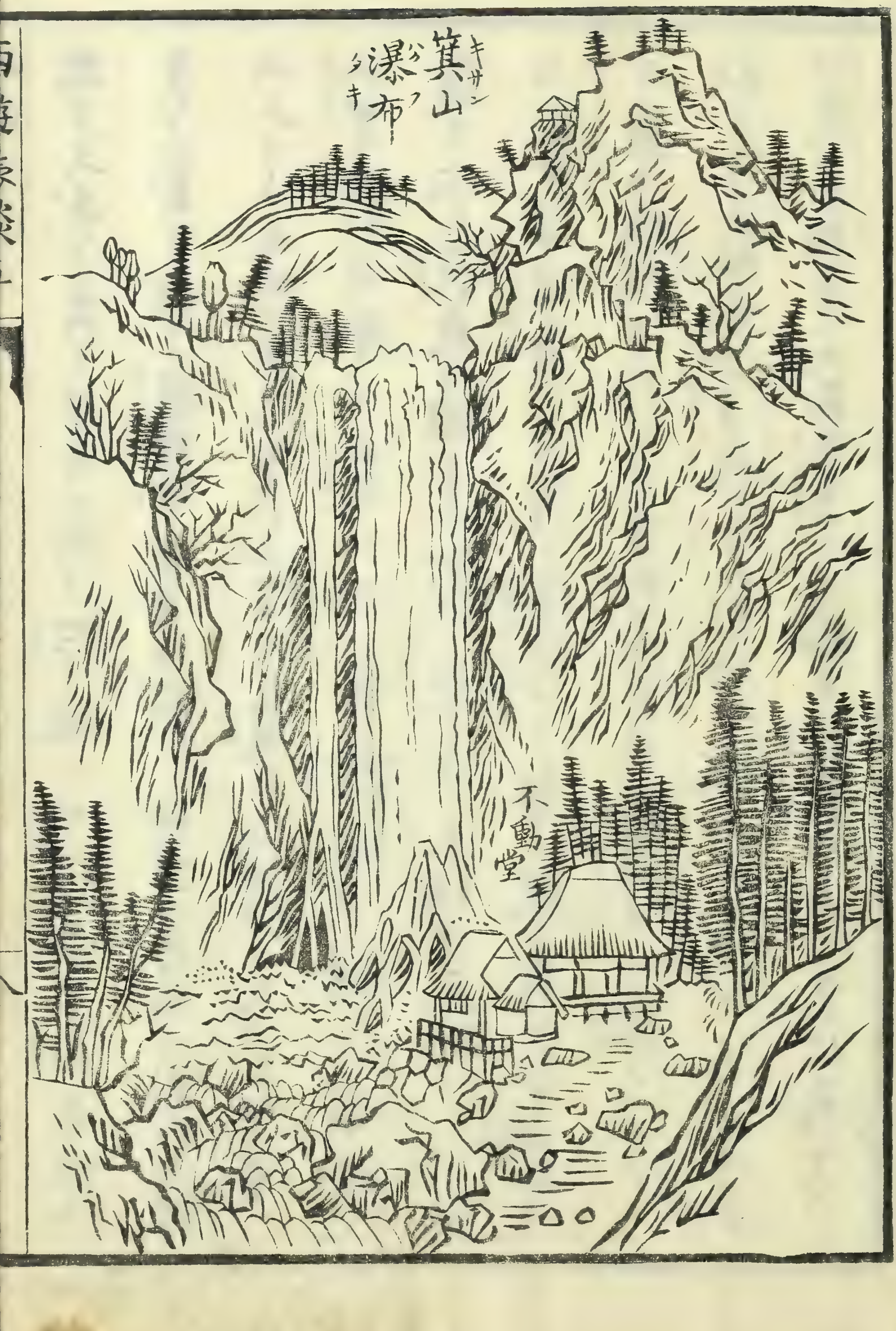

大机シマ
玄界シマ
鹿ノシマ
東照宮
福岡ノ方
ウグシマ

廿一日下関より船に乗ル西風吹て防州(ハウシウ)灘(ダン)(スハウナダ)を走事三十五
里奴和(ヌワ)と云小島に船をとゞける人家十八九軒有り又西風
に帆をあげて藝州の内御手洗(ミタラヒ)と云ふ島につきて泊(ハク)す
海岸人家多し廿三日出帆(シユツハン)し備後の鞆(トモ)と云所に船を
寄(ヨセ)る福山の領地也人家八九町有船ハ潮の来を待て渡(ト)
世(セイ)する所にして海肉(シユニク)売店(バイテン)多し廿四日暁(アカツキ)帆を揚(アケ)て出
つまとなる七時備前の国牛窓(ウシマド)と云岡山ノ領地此所にて船より
陸地(リクチ)を行ク七里備前の国岡山に至る二月十三日岡山を発(ハツシ)て
藤井一市(ヒトイチ)吉井川を渡り伊部(インベ)片上八木山(カタカミヤキヤマ)を過て三石(ミツイシ)有年(ウネ)

備後の
鞆トモ

備前
牛窓

出て其日山井より有年川舟渡正条姫路加古川より大久保
此間五十町一里あり経て明石舞子が濱須磨を経し曲りくく
絶景也兵庫に楠正成の墓あり山に入布引の瀧ここより山本
一村梅樹多し此頃さかりにて雪のごとし生田の社は昔来
にて遠より摩耶山を登る高さ山をおれば西乃宮あり
是より大坂へ五里二月廿三日浪華難波橋を渡り池田
路より西国池田の里に入る池田川を渡りて町四五街道
皆酒をつくる所なり一里余して多田に到る多田の社温泉池より湧
廿四日多田を出て深山に入鳴尾山に向ひて瀑布一里の瀧


箕山瀑布
キサン
タキ
不動堂

数十丈直(タヾチ)に落て那智の瀧に過(スグ)る瀧の右山にのぼる路(ミチ)甚嶮(セハ)しく石をよぢて越る勝尾寺(カチヲジ)観音堂に至る西三十三ヶ所の札所なり山上より大坂の方を見下に五里ばかり遥(ハルカ)に城見ゆる夫より山をおりて山田(サンデン)の寺より此ちら往還(ワウクワン)に出ければ食店(ショクテン)茶屋(チヤヤ)あり河を二瀬舟にて渡る一ツハ長良(ナガラ)の渡しと云渡りて程なく大坂へ入

二月廿八日浪華(オホサカ)を出て闇峠(クラガリトウゲ)を越て伏見の方へ趣伏見豊後橋をわたり京町又は西町は裏手(ウラテ)皆畑(ハタ)にして畑の中に梅桃を多く植(ウヱ)方(ハウ)六町ばかり桃山と名づく昔は奈良の方への路にして大和街道(カイダウ)と云畑に諸侯(ダイメウ)の名(ナ)いまに存(ノコル)せり。

宇治見臺山にあり 古の城内庭の跡といふ所小山よりのぞめり
湖中に堤あり 小倉堤といふ 秀吉公此堤を築 奈良より宇治
を廻して遠し 此堤三千町あり 岸に楊柳多し 柳ごり此辺の細工なり
臺より見れば左の方ハ宇治の里 宇治川流れて向ハ奈良山見へて
遥に金剛山吉野山見ゆる 右ハ闇峠 モロノ木山 八幡山見へて前
湖中漁舟楫を動かし 堤の半に漁村あり 所々桃の花
かゝりにして春ハ山も錦のごとし
墨染の里 遊亭ありその辺より寺に墨染桜あり 撞木
町今ハワつのに遊色のちまたり

八幡山
金剛山
吉野山ノ方

黄檗山
宇治山
春日山
花の時ハ茶店ヨリ出ス
河デヒガクアリ
魚肉など

三月朔日宇治の方に行伏見御幸の宮のまへをとほり桃山の下城跡を
左にみて六地蔵木幡村をとほりて黄檗山萬福寺ハ唐僧
隠元禅師影應の所創立せし大伽藍なりそれより三室
堂橋寺恵心寺奈良の方春日山大佛殿興福寺郡山
の方より法隆寺立田の庄吉野の方まで見物すべし是と
大和廻りより古蹟多し能人の知所なれバ爰に不載それ
より京へ出て数日留りて名所古跡多く見物して遊あるけバ
略す四条橋をわたりて東山の方に行祇園町遊亭
を祇園の社夫より八坂の塔を清水観音の方へ行なり

西北に小野天神の門を出て紙屋川にかゝる小橋を渡て平野の社あり　爰も名の高き桜多し　又寂たる社の鳥居表に東の方に御室あり　御室堂の前に八重桜多し　夫より廿二十余町ゆきて嵯峨釈迦堂あり　七八町ばかりに嵐山あり桜の木陰より一重桜さき出て大井河とのぞめり　東ハ桂川といふ山ハ丹波のかたに続り　其の辺ハ茶店を出し酒食[illegible]大井川の橋を渡るを渡月橋と名づく　渡りて虚空蔵堂あり　茶店あり　夫より東の方へ暫く行て松尾の社梅宮あり　甚だ静かなる所にして遠く見えて遊行の人稀なり

三条橋より四条をながむ

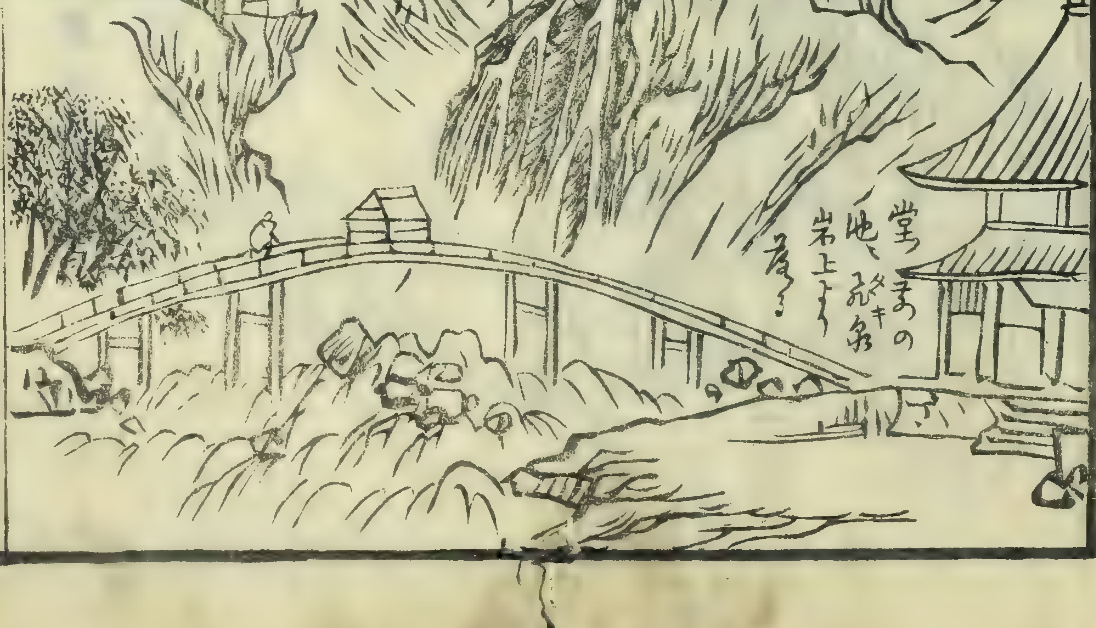
清水觀音
東山
八坂塔
大佛殿

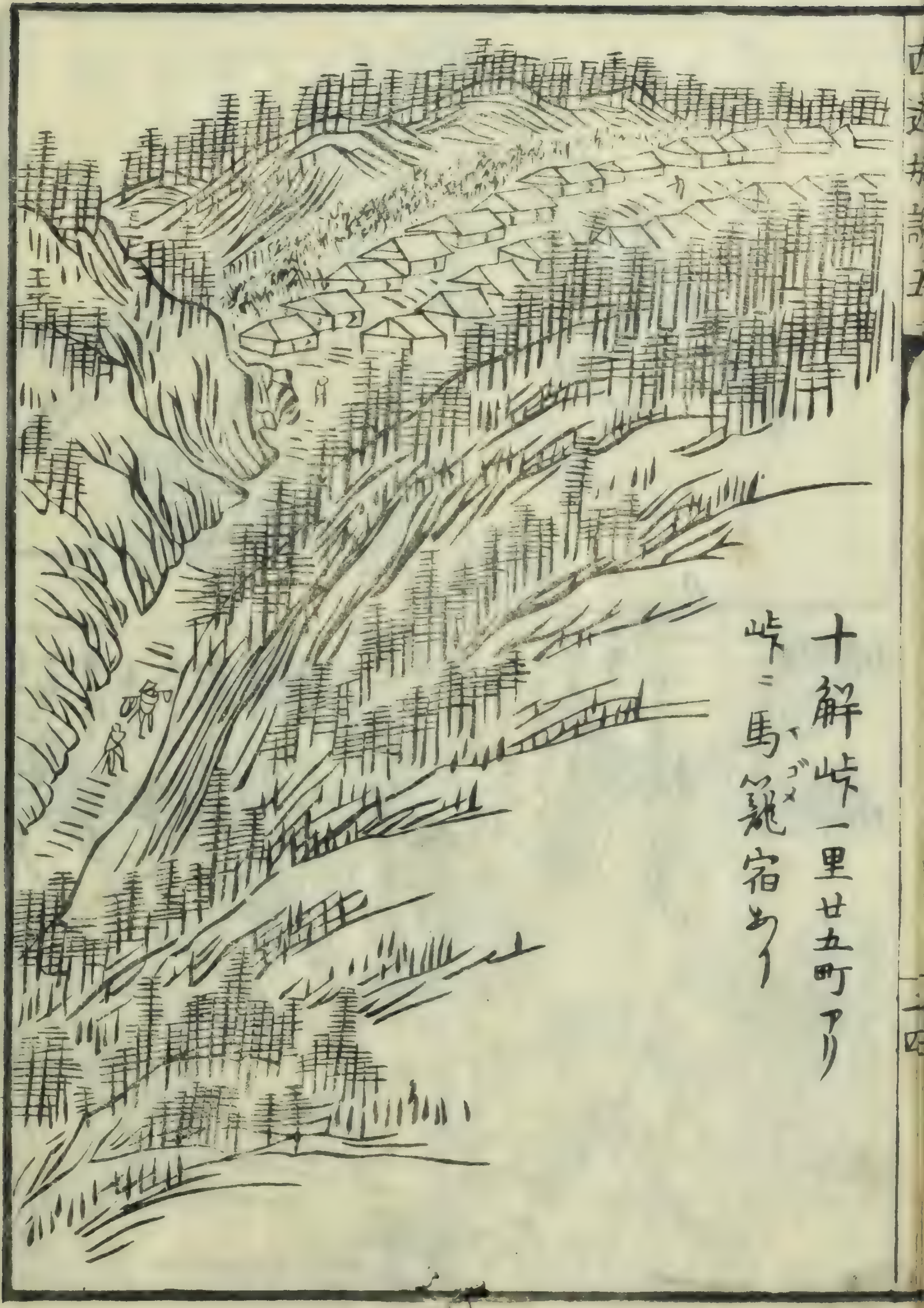
嵯峨嵐山

虛空藏堂

錺り桂(カツラ)の渡(ワタシ)千本通(トヲリ)より京極女町々の方より東寺(トウジ)は弘法大師の像ある終る開帳なり三月廿一日より諸人参詣多し本堂八千手観音堂は薬師如来也此寺は大伽藍なりしと仏の心(イッコロ)焼(ヤケ)たり羅城門有 西本願寺又本國寺の前をとて西南の凌(ラジャバイ)を廻りくる加茂の方へ叡山(エイザン)近江ノ国ナリ鞍馬貴(クラマキ)布祢(フ子)賀茂此人の古き家あれは所語

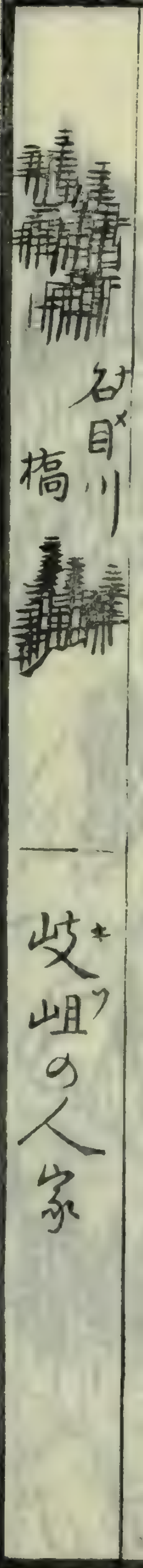
三月廿八日近江国
鈴鹿山を越る
筆捨山景色
よし残花
咲けり

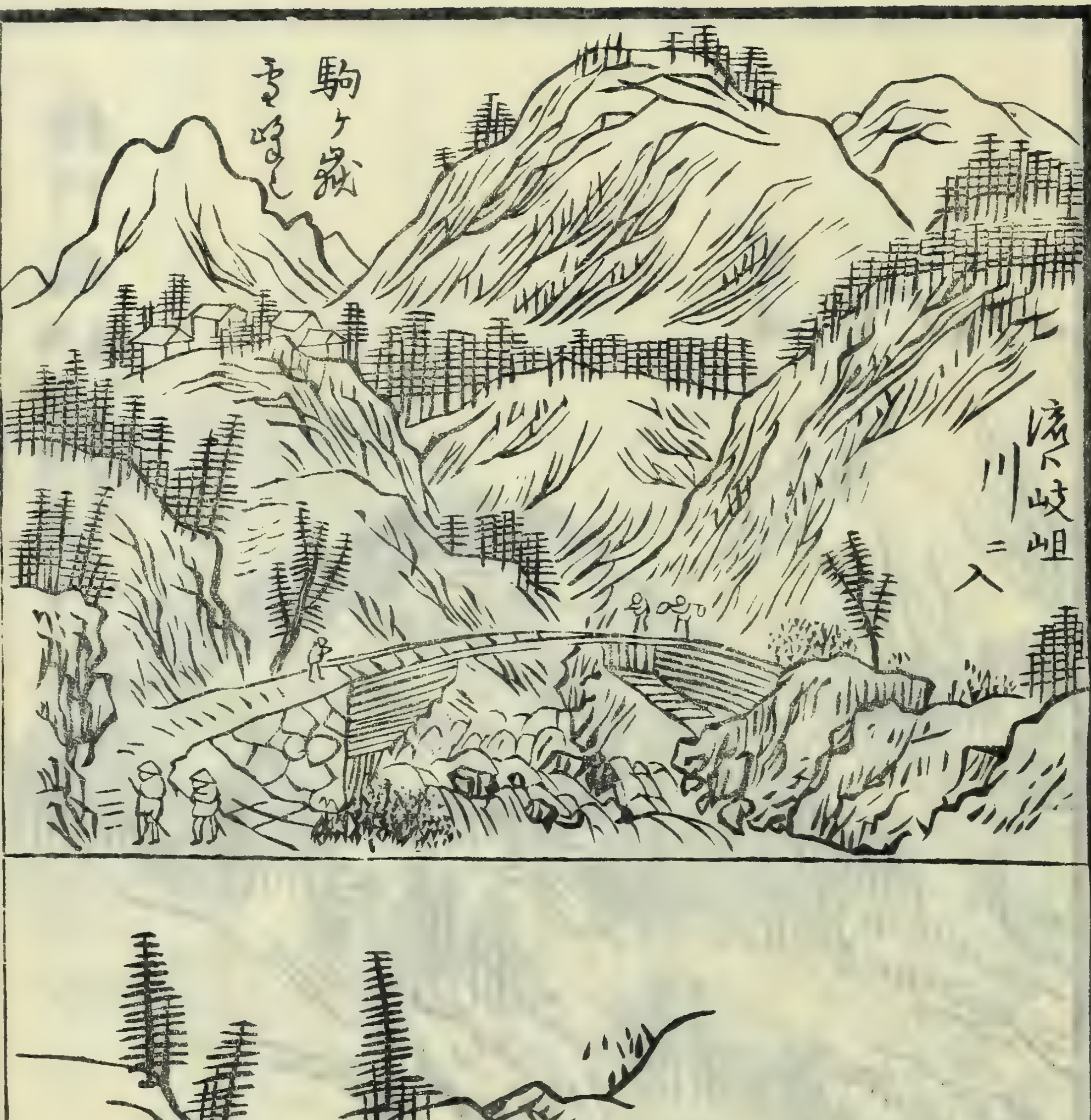

より山に
入即
布滝
寺アリ
夫より
竈カマドト
云ル
宿ヲ
過ぎて
夫より嵯峨路
夫ゟ大井ヲ
川を渡り
西ノ塚
へ至る
堂ノ前の
池へ飛瀑タキ
岩上より
落る


十解峠一里廿五町アリ
峠ニ馬籠（ゴメ）宿あり

エナガダケ
胞衣ヶ嶽
雪ふかく白し
此所より五里余
九月すゑより雪ふれ
飛騨ニ而
乗鞍岳
此ノ方御嶽
加賀ノ国之白嶽
又右ノ方駒ヶ岳
皆雪峯也

すゞ我ご峠草木多く月のなし山をわたりては躑躅桜桃梨花咲
けのり也　岐岨河流れし桟道続きて渓水乃音も絶へ
すし人家板屋作り萱葺あり壁は板にて栂欅の森也
八五原奈良井の宿鳥井峠まで十八町のぼりて二十町下る
熱川より二里本山まで下り岐岨路に下諏訪温泉出テユ
二所に左湖水是ナリスハノ池の向へ城見へ申ふじ山も見ゆる
和田峠より五里のぼりて峠に茶店ありこのあたり四月
雪ふるなれどもしのびて七曲坂あり




駒ヶ嶽
渡岐岨
川ニ入

稲川橋
野尻須原の間
底ハ岐岨川ニ入
雪峰

四月十日浅間山の下をとをる 四十餘年以前此山焼出て一夜の焼石ハ皆大石まじりて色黒く降し 又七年以前焼出て軽井沢より坂本碓氷峠山々皆焼石まじり 樹木枯て岩石有り 此地寒気強く松すくなし 杉多し 又栃の木多し 上州妙義山東の方より見えたり 山のうちに嵬々と有り

一里餘東より見ゆる 岩岸に二ツノ穴あり 此穴つらぬきて月のごとく 又百合若大臣射ぬきし穴といふ

妙義山岩峯
画(エガク)事(コト)不能(アタハズ)

十二日深谷より熊谷宿あり堤(ドテ)三千町ほど皂角(サイカチ)乃
樹(キ)あり右の方相州大山又冨士山見ゆる四月十三日大
宮より板橋に至り郷里(ケウリ)神僊(シンセンザ)にかへる

寛政庚戌四月　門人蘭江平民誌

江漢先生著

巻之五大尾

春波樓蔵版目録

一銅版地毬全圖　并畧説一冊添　出来

一銅版東都八景　竪一尺余横一尺三寸余ののぞき目がねうつし絵　出来

一銅版天毬之圖　并天文畧話一冊添　皆天地窮理ヲ譯ス　出来

一銅版地毬大全圖　分圖して合するときは三尺の圓圖となる　并萬國風土考一冊添　近刻

一春波樓画譜　木版及銅版にて山水人物花鳥を圖す　近刻

一和蘭奇工　銅版の彫方及すなはち阿蘭陀画の法およびかうへうれ天文の器いはゆる和蘭奇器の製法を圖をもつて委しく書　近刻